

日本に一台のみ現存するオリジナル・グランドピアノ 新日本製鐵(株)八幡製鐵所から旧古河鋳業若松ビルへ寄贈！



新日本製鐵(株)八幡製鐵所から寄贈された、日本に一台しかないオリジナル フルコンサート・グランドピアノ

新日本製鐵(株)八幡製鐵所では、さる3月6日、旧古河鋳業若松ビル管理運営委員会に対して、同所が所有していた日本に一台しか無い貴重な“フルコンサート・グランドピアノ”を寄贈した。それを記念して、同運営委員会では「旧古河鋳業若松ビル フルコンサート・グランドピアノお披露目コンサート〜歌とピアノでつづるひと時〜」と題した、お披露目コンサートをさる3月25日、同ビル一階多目的ホールにおいて花房昭一若松区長はじめ、100余名の参加者のもと開催した。

開催に先立ち、旧古河鋳業若松ビル管理運営委員会の山口久委員長は、「この古河鋳業ビルの保存



「新日鐵さんのご理解と区民の皆さんの願いがかなった」と語る山口委員長

に対して、区民の皆さん方が一丸となって保存という形になった。こういう古い建物に対して新日鐵さんに非常にご理解いただき、歴史あるピアノを寄贈して戴いたことで、ピアノを待っていた市民の方々が、一番喜んでいるのではないのでしょうか。今後の事についても、各団体から問い合わせがあり、子供たちに対して様々な教育面にも活用していきたい」と八幡製鐵所に対しての感謝の意と今後のピアノの活用方法を語った。



「とてもやわらかい音だった」と語る 尾田さん

ピアノを弾いた尾田理恵さんは、「今では作られていないとてもいい楽器であり、ピアノの助けをかりて演奏させて頂きました。また、このホールにも助けて頂いたと思いますが、ピアノはとてもやわらかい音がでていたと思います」と演奏後の感想を語った。

また、ピアノをバックにソプラノの独唱を行った武石和主子さんは、「いい響きのある由緒あるピアノの音をバックに歌えたことと、このようなピアノが巡り巡ってここ若松にきたということは感慨深いものがあります。また、こういう場にめぐり合えたことは、ありがた

いことです」と独唱後の感想を述べた。

この演奏鑑賞に来ていた北九州シニアパソコンひろばインストラクターの白石和恵さんは、「私たちは、武石先生に歌を習っていますが、普段はなかなか先生の歌を聞くことはない。今日はとてもよかったです。そして、ピアノの音がなんともいえないとてもいい音色でした」と演奏後の感想を述べた。



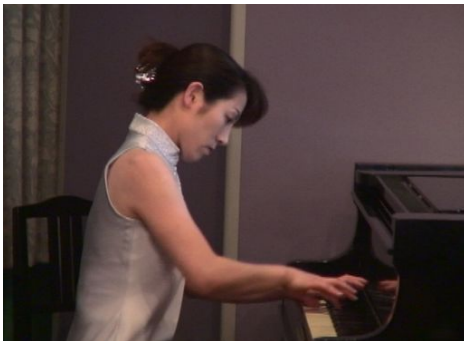
「ピアノが巡って若松に来たことは、感慨深い」と語る 武石さん



御姉妹でピアノ連弾を行う
尾田さん(写真:左)安永さん(写真:右)

編曲「歌の翼」、メンデルスゾーン作曲「春の歌“無言歌集”より」、ショパン作曲「幻想即興曲」「ワルツ第2番」。

武石和主子さんのソプラノ独唱・ピアノ尾田理恵さんによる、ブラームス作曲「日曜日」、武島羽衣作詩・滝廉太郎作曲「花」、平井康三郎作詩・作曲「ゆりかご」、野口雨情作詩・草川信作曲「春の歌」ほか、安永久恵さん・尾田理恵さんのピアノ連弾による、ビゼー作曲「カルメン 序曲」、ピオヴァーニ作曲「ライフ・イズ・ビューティフル」、モッリコーネ作曲「ニュー・シネマ・パラダイス」、バッハ作曲・ヘス編曲「主よ人の望みの喜びよ」ほか、故郷「兎 追いし かの山～」をピアノ演奏と歌で会場が一体となって盛り上がった。その後、何度もアンコールの拍手が鳴り響いた。



アンコールに応じて演奏する 安永さん

なお、このオリジナル・グランドピアノは、現存するピアノでは日本に一台しかない貴重なもので、ピアノ線はレスロミュージックワイヤ(ドイツ製)、白鍵は特注の象牙、黒鍵は黒檀、響板は北海道の蝦夷松、ハンマーは今では見られなシングルスプリングである。故ヘルベルト・フォン・カラヤン氏をはじめ、八幡製鐵所の所歌「新しき八幡」の作曲者でもある前田憲男氏ら多くのピアニストが演奏したと言われている由緒あるピアノである。購入は昭和31年(1956年)である。

この日の演奏は、つぎのとおりである。

尾田理恵さんのピアノの独奏は、メンデルスゾーン作曲リスト



観衆に包まれた「グランドピアノ」



「故郷」を合唱 ホールいっぱいピアノの音と歌声が響き渡った「兎 追いし かの山～」



大正建築の 旧古河鉱業若松ビル 入館無料



「今日は、とてもよかったです」と感想を述べる白石さん

オリジナル・グランドピアノの仕様

- ① 型番 ヤマハグランドピアノ FC# 66900
- ② 寸法 長さ 275 cm×幅 161 cm×高さ 103 cm
- ③ 重量 530kg